

史跡モニュメント「加茂歴史の小径(こみち)」新たに1基設置

当商工会議所では、歴史を活かしたまちづくり事業の一環として加茂の奥深い魅力を紹介する史跡モニュメント「加茂歴史の小径(こみち)」を市内に設置しています。

これまでに 8 基設置してきましたが、新たに稲荷神社の 1 基が完成し合計 9 基となりました。

史跡モニュメント「加茂歴史の小径」を巡り、昔の風景を想像しながら加茂のまちを歩いてみませんか？



草創の年次は古く、創建は定かではありません。

本殿は明治 27 年（1894）に再建され、農業や商売の神様として崇められています。

社務所には幕末の絵師田中文^{ぶんけい}珪が描いた天井画がある他、神^{しん}壇^{だん}には鎌倉時代（13～14世紀）に製作されたと思われる半肉彫^{はんにくぼり}で鑄銅製の観音菩薩像が安置されています。

手前の道は江戸時代、越後国内の主要街道の一つで三国街道と呼ばれていました。大昌寺^{だいしょうじ}（松坂町）から矢立松原を抜け、三条・保内へ向かう途中に下条川^{げじょうがわ}と呼ばれる川があり下条大橋が架かっています。

下条川の上流、上下条^{かみげじょう}地区に江戸時代初期、堰場^{せきば}と呼ばれた川をせき止めた場所があり、そこから分流した川が「前川」と呼ばれて用水に使われていました。その前川に小さな橋が架けられており、これが現在の小橋の由来となりました。